

2016.8/25-9/3 瀬戸内～大阪～釜山

9月2日《釜山ビエンナーレ2016レセプション》



今日は釜山ビエンナーレ2016のプレスなどのVIPオープン。雨の中、釜山市立美術館にはたくさんの人が集まっている。



ビエンナーレの主会場は2つ。そのうちのひとつ釜山市立美術館では「an/other avant-garde china-japan-korea」というテーマで、日中韓それぞれにキュレーターがあり、3つのコーナーに分かれている。日本のチーフキュレーターは榎木野衣さん。アシスタントキュレーターに上田雄三さん。さらにアドバイザーとして建島哲さんを加えた3人で日本のキュレーションチームが組まれている。



今秋、BankART Studio NYK 全館を使って個展を開催する柳幸典さんの作品も出品されている。



また今期BankARTスクールの講師でもある堀浩哉さんも出品されているので、彼らの応援にかけつけた。堀さんは自作の中で、パフォーマンスが繰り広げられた。



会田誠さん、自作の前で。



ビエンナーレの第二会場、F1963(キスワイヤーファクトリー)に移動。こちらでの展示は「混血する地球、多衆知性の公論の場」というテーマ。全体のディレクターはエン・ジェウカブさん。



たくさんのなつかしい人々に再会。元オルタナティブスペースバンドのキム・ソンヨンさん。今回のビエンナーレの総合ディレクターだ。



オープンスペースbaeのソ・サンホンさん、元釜山文化財団のチャ・ジェグンさんも。左は柳さん本人。



タムラサトルさんは、こちらの会場での展示に参加。左は、チャさんから紹介していただいた東亜大学建築学科教授のソグムホンさん。

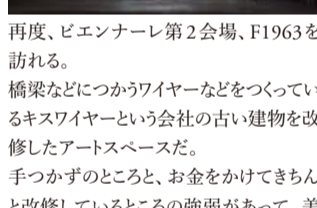


いずれも参加作家の、柳幸典さん、榎忠さん、ユック・クンビョンさん。同窓会のように再会。

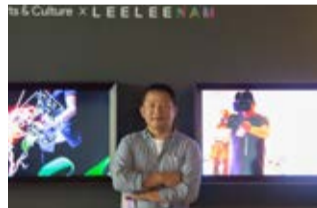


サンドラムが飛び入りで、「よろこびの舞」を披露。会場がさらに盛り上がった。

9月3日《釜山》



再度、ビエンナーレ第2会場、F1963を訪れる。橋梁などにつかうワイヤーなどをつづいているキスワイヤーという会社の古い建物を改修したアートスペースだ。



手つかずのところと、お金をかけてきちんと改修しているところの強弱があって、美しいリノベーションを実現している。使われなくなった巨大な鋼鉄の機材などが要所要所に残され、展示されたり、家具として再利用されている。



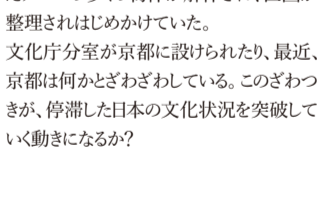
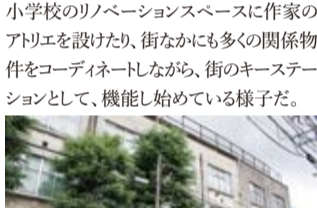
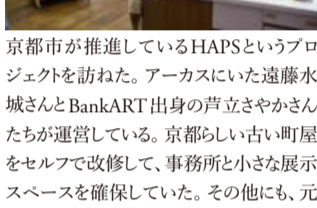
展示をみているとやはり、いろんな人とくわす。映像作家のイナムさん。光州でも横浜展示でも大変お世話になった。



釜山市立美術館横のリーヴファン美術館のあとは、甘川洞文化村。朝鮮戦争の際に逃げた人たちが、コンディションの悪い急峻な山に居を構えた場所だ。そこが、きれいな色に塗られたり、アートが導入されたりと、ちょっとした観光地になっている。

2016.9/13 - 9/17 東海道(京都～横浜)

9月13日《京都》

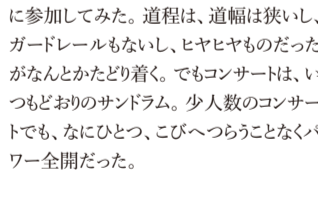
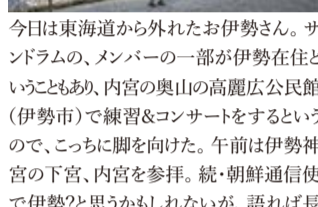


9月17日《横浜》

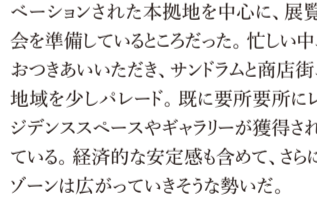
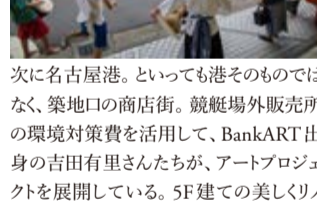
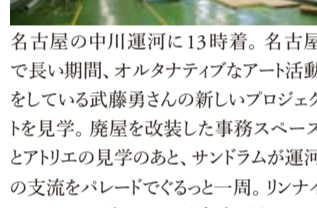
久々の横浜、BankART Studio NYKでのコンサートだ。サンドラム7名+韓国からの奏者2名、イム・スンファンとイ・ソンス。サンドラムと彼らとの出会いは、まさにここBankARTでの3年前のレジデンスプログラムの時だ。たまたま訪れた二人とサンドラムは意気投合し、その後、かなりの頻度で日韓の往来を続ける。日韓合同のCDも出したばかりだ。

それにしても今日のコンサート。パワフルだった。台湾、韓国への武者修行を通して、新しいリズムと言葉をどんどん吸収していつかは理解していたが、それが一切ほけなの。むしろシャープに増幅、展開されているように聞こえる。夏の最後にふさわしい大輪だったと思う。

9月14日《伊勢》



9月15日《名古屋》



9月16日《浜松+静岡》

